

安心して感染したいから
記事

名前

神戸新聞 2020年11月02日 月曜日 面名 タN タ4 5ページ

新潟県見附市在住のイラストレーター村上徹さん(40)が市公式フェイスブック(FB)に掲載した5コマの漫画に共感の輪が広がっている。タイトルは「安心して感染したい」。新型コロナウイルスに罹患しても励まし合える地域にしたい。そんな願いを込めた。閲覧は35万回(10月19日時点)を超え、教材や授業に使いたいといった要望が各地から相次ぐ。

安心して感染したいから

漫画の1コマ目は女性の言葉だ。「狭い町で噂になるから一人目の感染者にだけは絶対になりたくたくないわ」。3人が続く。感染したら「村八分」「後ろ指」「陰口叩かれて住めなくなる」。一様に表情が暗い。5コマ目に村上さんそっくりのキャラクターが心の中でつぶやく。「噂するの村八分にするのも後ろ指さすのも陰口をたたくのもウイルスじゃない。この、『ひと』なんだよなあ」。そして最後に「見附人として互いを思い合う温かい『ひと』でありたい」という願いが語られている。市民との会話をもとに、村上さんが構成を考えた。

新潟の男性 ネットに啓発漫画

閲覧35万回超、共感の輪



「怖いですね、なんて話を合わせながらもモヤモヤした気持ちになった。それを漫画にした」と村上さんは言う。

人口約4万人の見附市の公式FBで、4年前から地元の見附市で薬局を営む佐藤日高さん(57)。8月に20代の息子が東京都から帰省した

掲載したこの作品は2300人以上がシェア。道徳の授業、回覧板、自治会報などに使いたいといった要望が兵庫など28都府県から寄せられた。

漫画が感染者家族を救うきっかけになったことも。見附市で薬局を営む佐藤日高さん(57)。8月に20代の息子が東京都から帰省した際、感染が判明。家族が批判にさらされ、同地区の住民も託児所利用を断られるなど風評やデマが広まった。意を決した佐藤さんは地元紙にチラシ約1万4千枚を折り込んだ。家族すべてが陰性で、息子の立ち寄り先も安全と確認されたことなどを説明。佐藤さんと姉の千晴さん(59)の実名、似顔絵も載せた。描いたのは村上さん。「安心して感染したい」を見た佐藤さんからの依頼だった。千晴さんは「チラシのおかげで風評は減り、底からはい上がれた」と振り返る。

村上さんは「感染者が出たら、近所じゃないといけない。でも、それを口にしたらいじめにつながる。防ぎ止めるのは薬でもマスクでもない。一人一人の心がけだ」と思う」と呼び掛けている。